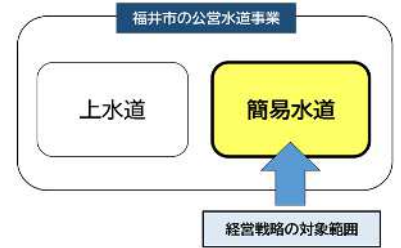


「福井市簡易水道事業経営戦略」概要版

1 「経営戦略」の策定概要

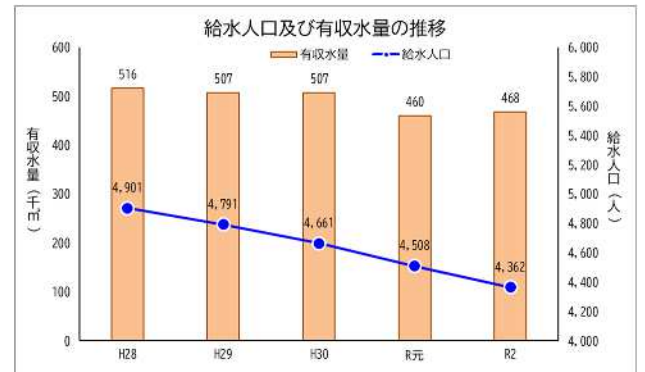
- ・本市の簡易水道事業は、施設の老朽化に伴う更新需要が増大する一方、人口減少による水道料金収入の減少に伴い、厳しい経営環境になる見込み
- ・将来にわたって安定した住民サービスを提供していくため、安定した経営基盤を実現するための指針として経営戦略を策定
- ・計画期間は、令和4年度から13年度までの10年間
- ・対象範囲は、公営の簡易水道



2 本市の公営簡易水道事業について

(1) 事業概要

- ・対象地区 美山地区及び越廼地区
- ・施設数 32施設（美山27施設、越廼5施設）
- ・給水人口 H28：4,901人 R2：4,362人
- ・有収水量 H28：516千m³ R2：468千m³



(2) 現状と課題

- ・施設の老朽化 管路経年化率 49.61%
(管路経年化率：法定耐用年数を超えた管路の割合)
- ・決算状況 (R2)
 収益的収支 19百万円 (維持管理費の増加)
 資本的収支 59百万円 (更新事業費の増加)
 内部留保資金により資金不足には至っていない。



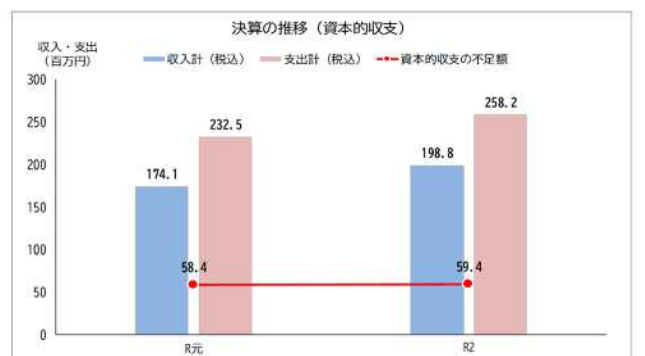
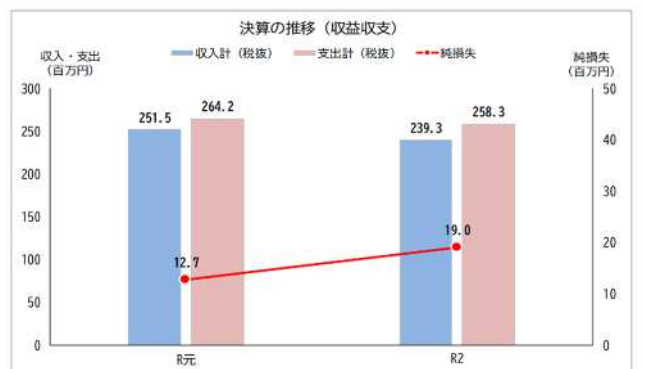
3 基本理念

- 「信頼にこたえる水づくり」
～安全で安心な水道を次の世代のために～
- ・水道事業の基本理念と同じ理念

4 事業計画 (投資・財政計画)

(1) 投資計画

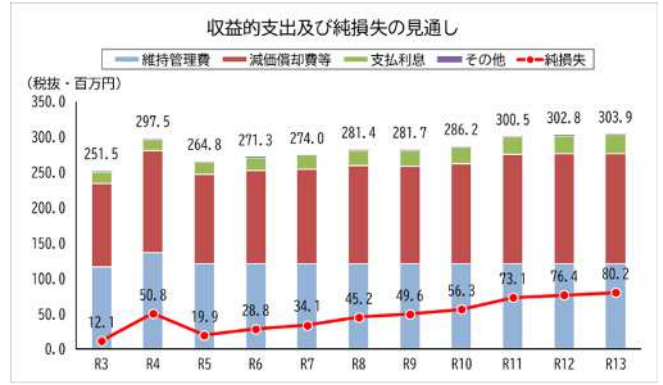
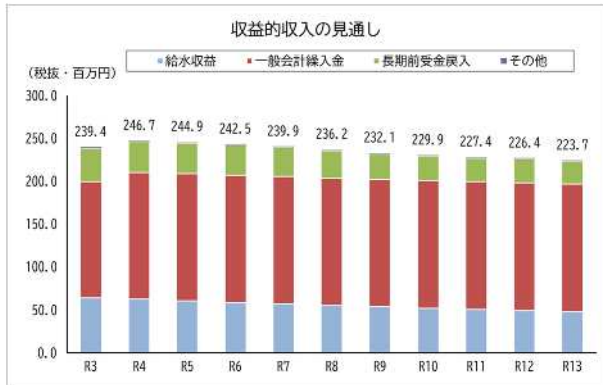
- ・統合事業：下味見地区(西河原、東河原、横越、折立)の施設統合 (~ R7)
- ・更新事業：管路や機械設備の更新 (R8 ~)
特に老朽化が著しい管路の更新に注力



経営指標は、簡易水道事業が地方公営企業法を適用した令和元年度以降について分析しています。

(2) 財政計画

- ・今後も、給水人口、給水収益ともに減少していく見込み
- ・統合事業や更新事業の実施に伴い、企業債の支払利息や減価償却費が増加し、純損失は増加していく見込み
- ・一般会計からの繰入金により収支不足分を補填している経営状況であり、今後も徹底したコスト削減や業務の効率化に注力
- ・上水道の料金体系と同じにすることにより、負担の公平性を確保



5 経営健全化の取組

(1) 事業の効率化

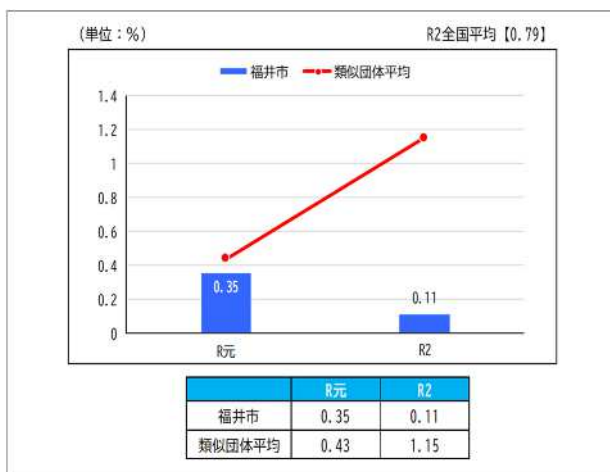
- ・施設の維持管理や水質管理を民間業者に委託し、業務の効率化（民間活力の導入）
- ・共通する業務について、水道事業会計に委任し、コスト削減（水道事業会計との連携）
- ・簡易水道施設及び飲料水供給施設の統合により、維持管理費の縮減（施設の統合、ダウンサイジング）

(2) 収入の確保

- ・徴収事務を委託した民間業者が行う滞納整理を強化し、収入の確保（収納率の維持）

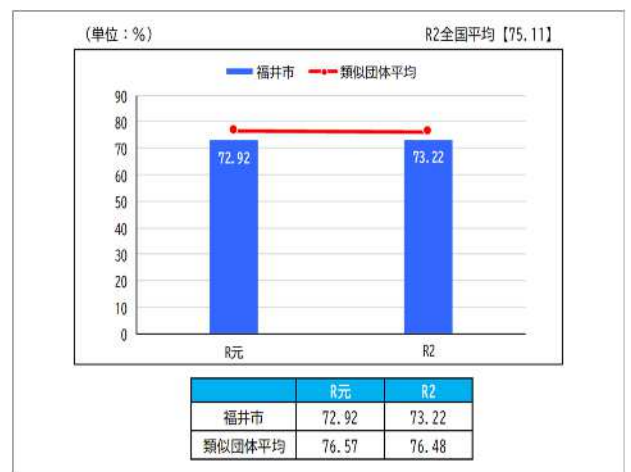
6 経営指標による分析、業績目標

・管路更新率



算定式 $\frac{\text{当該年度に更新した管路延長}}{\text{管路延長}} \times 100$

・有収率



算定式 $\frac{\text{年間総有収水量}}{\text{年間総配水量}} \times 100$

類似団体...地方公営企業法適用事業かつ給水人口 2,001 人以上 5,000 人以下の団体（全 51 団体）

目標（投資）: 管路更新率 1.6% 令和 2 年度 0.11% 令和 13 年度 1.6%

目標（財政）: 有収率 75% 令和 2 年度 73.22% 令和 13 年度 75%